工業部会通信

（発行）
かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館１階
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞 KANAKEI

コバヤシ精密40周年
オンライン式典開催

ウィズコロナ時代 新しいやり方にしたい

ウィズコロナ時代での新しいやり方にしたい。航空機部品製造、コバヤシ精密工業（南区大野台）は、創業40周年を記念し、オンライン会議システム・ＺＯＯＭを利用した「新しい記念祝賀会」を開催した。社員たちで構成された実行委員会が企画。当日は関係者約50人がオンライン上で参加した。オンラインながらも、参加者に感謝の気持ちを伝え、楽しんでもらうよう工夫した。

全社員で「感謝」を伝えた

社員たちで企画

密を避けるためにオンライン行事とした。事前に各参加者の住所に「当日まで開封禁止」の荷物が届けられた。

当日は、同社の小林昌純社長のあいさつに始まり、参加者たちは一斉に荷物を開封。中にはビール（もしくはお茶）と記念品、缶詰のおつまみなどが入っており、画面上で飲み物を手にして乾杯した。

また、社員たちが協力し、直筆で書いたお礼状も同封されていた。そして40周年の歴史を振り返ったＶＴＲを上映。その後はオンライン中継により、工場内の各部門の様子を担当者がリレー形式で紹介した。景品が当たる抽選会もあった。

最後に小林社長が「今後は社会問題の解決につながるような製品を次々と開発していきます。10年後には売上高を5倍にし、世の中をあっと言わせるような企業にしていきたいです」と抱負を述べ、締めくくった。

社員たちで企画した式典

副部会長コラム「工業よもやま話」

経営者と学問について

今月は「経営には学問が必要であり、さらに経営者が学ぶことは自社の利益に直結する」ということをお話しします。

分からないことがあれば、大学の門を叩くのが一番の近道です。自分で調べるより、その道の専門家に聞くのが最速の方法だからです。私の体験からお話します。

私は大学経済学部卒業後、父が経営する当社に入りました。まず困ったのが、図面が読めないことでした。そのため1年間、機械製図科で学びました。そして工作機械1台を何とか設計できるようになり、図面が読めないという負い目はなくなりました。

やがて時代が進み、コンピューターによるＣＡＤ／ＣＡＭの普及が始まりました。当時は１９８０年代。私は定規のドラフターで設計していたため、２次元ＣＡＤを初めて触り、そのよさをすぐさま実感、間髪入れずに導入を決めました。

ＣＡＤの次はＣＡＭです。ＣＡＭは３次元ですからデータがつながりません。どうすればよいか分からない。ならば専門家に聞くのが一番と考え、同分野で知られていた北海道大学・岸浪建史先生を訪ねました。先生はＣＡＭの考え方を丁寧に教えてくれました。それ以来、今日まで交流が続いています。

また、今から8年前、当社で職場不適応者が４人も出てしまいました。社員が通院する精神科に聞いても、患者のプライバシーなので何も教えてもらえません。それなら、自分が知識を深めるしかないと、精神保健福祉士の勉強をし、資格を取得しました。

さらに、専門家の話も聞きたいと、今度は北里大学の田中克俊先生を訪ねました。その甲斐あって、職場からうつ病などを出さないために経営者として何をすべきなのかを、論理的に把握することができるようになりました。

経営者にとって、遊びも重要です。しかし「学び続ける」ということは、それ以上に大切であることは、言うまでもありません。（湘南デザインＣＥＯ・松岡康彦）

相模カラーフォーム
マスク補助グッズ寄贈

化成品加工、相模カラーフォーム工業（中央区上溝）は、自社商品となるマスクの補助グッズ「くびにかけるくん」を、相模原市に２０００個寄贈した＝写真。

同商品は、マスクを耳ではなく「首」にかけるためのアイテム。穴にゴムひもを掛けると、耳ではなく首周りでマスクを装着できる。長時間マスクをしても痛くならないとして注目されており、1月から11月までに約20万個を販売した。

寄贈した同社の甲斐大輔取締役は「相模原で事業をし、自社商品を持っているメーカーとして、コロナ禍で市に何か貢献できないかと思い寄贈した」と話した。

抗菌・抗ウイルス製品
性能評価試験を支援
県など

県は、県内企業が開発した抗菌・抗ウイルス製品に対する性能評価を始める。新型コロナウイルス感染拡大を背景に、既存技術や設備を活用してオリジナル製品を開発する企業が増えており、性能評価に対するニーズが高まっているため。県内企業による開発を支援するのも狙い。

具体的には、ウイルス粒子を破壊、変性することで、生物の細胞に侵入して増殖する機能を失わせる「抗ウイルス性能」を評価していく。

県立産業技術総合研究所（海老名市）で実施。相談や申し込み開始に関する詳細は12月25日から同所ウェブサイトに掲載する。

テクニカルショウ
オンライン開催

県内最大規模の工業技術見本市「テクニカルショウヨコハマ２０２１」が2月15～26日まで、オンライン開催される。出展予定数は３００社。今年はロボットやＡＩ・ＩｏＴ、加工技術などに加え、「ニューＷｏｒｋｉｎｇ・Ｌｉｆｅスタイル」のゾーンを新設する。

神奈川産業振興センターと県、横浜市などの主催。オンライン開催となる今回は、マッチング率を高める検索機能を拡充。分野別検索や、さらに細分化された「関連する技術・製品の検索」により、最適なパートナー探しを後押しする。

新規会員募集中
近未来技術研究会
相模原商工会議所工業部会